

ラオスの子供に向けて～Study for Two～

試験後の教室の外にて、看板を掲げながら大きな声を出している学生達がいた。「教科書をください!」、それは **STUDY FOR TWO** 慶應支部（以下 **SFT** 慶應）のメンバーだった。「勉強したいと願うすべての子どもたちが勉強できる世界に。」この理念の元 **SFT** 慶應は、勉強したいと願うラオスの子供たちへの奨学金を送っている。

代表を務める岡大樹さん（法学部法律学科2年）は、自身も奨学金制度を利用し大学に通い、教科書の値段の高さも感じていたため **SFT** 慶應を立ち上げた。今回は **SFT** 慶應の活動について説明していただいた。まずは回収作業。定期試験後の呼び掛け、図書館や食堂のボックス設置などによって不要になった教科書の回収を行う。次に集めた教科書をネット販売により定価の半額により転売し、上がった収益を勉強したいラオスの子供たちへの奨学金に当てている。ラオスの子供、教科書を購入した学生の双方が勉強できる、これが **SFT** の名前の由来だ。

慶應で活動するに当たって、困難なことは多いようだ。キャンパス内での教科書販売が禁止されている上に、駅から近いため通学路に販売露店を出すこともできない。さらに慶應生は中古本をあまり買わずボランティアに積極的でない傾向があるようだ。

様々な困難に立ち向かう中、半年で3万円の売り上げを記録する。ラオスの子供は1人1万円の奨学金で1年間の勉強ができるので、3人分の学費に当たる。「奨学金を受け取る3人の子供の写真と証明書が届いたとき達成感を感じた。」と岡さんは語る。だが一方で「収益が減れば、支援できる子の数が減ってしまう。それだけは阻止したい。」という彼の言葉からは代表としての使命感や責任感が伝わってきた。

教科書回収やイベントを通じて、様々な人と触れ合うことによって「国際貢献を身近なものと感じてほしい」と考える副代表の峰美紀子さん（法学部政治学科2年）は、少しでも多くの人が国際貢献に関わってくれることを願い活動している。部員の話の聞いていると、**SFT** の今後の活動には期待せずにはいられない。「勉強したいと願うすべての子どもたちが勉強できる世界に。」この理念に向けた彼らの活動に今後も注目していきたい。